

特別活動における話し合い活動の充実と学力向上の関係

—— 全国学力・学習状況調査分析を通して ——

上 原 進* 高 原 香 織*

キーワード 全国学力・学習状況調査 小中学校学習指導要領特別活動編
「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」



I はじめに

新学習指導要領に基づき小学校、中学校において特別活動は先行実施され、各小中学校では模索しながらの授業が進められていると考える。新中学校学習指導要領解説特別活動編（平成 29 年 7 月、以下「特別活動編」と記す）では「特別活動が各教科等の学びの基盤となるという面もあり、（中略）内容や指導のプロセスの構造的な整理が必ずしもなされておらず、各活動等の関係性や意義、役割の整理が十分ではないまま実践が行われてきたという実態も見られる」とあるように特別活動が学びの基盤としての役割が不十分な認識で、話し合い活動も活発ではなかったと考える。話し合い活動の沖縄県内の状況は「授業における基本事項（全国学力・学習状況調査『学校質問紙』）」によると平成 25 年度と平成 29 年度を比較すると話し合い活動が小学校 31.7%から 45.3%へ増加、中学校では 23.7%から 34.0%へ増加している。増加傾向にはあるが、秋田県と同調査では、小学校 59.0%から 72%へ増加、中学校 50.0 から 79.3%への増加が見られる。県内の状況と比較しても大きな開きを感じる。

特別活動編には「②『思考力、判断力、表現力等』集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するための話し合い、合意形成を図ったり、意志決定したりすることができるようにする」「生徒が各教科等で学んだ知識などを課題解決に関連付けながら主体的に考えたり判断したりすることを通して、個人と集団との関わりの中で合意形成や意志決定が行われ、こうした経験や学習の積み重ねにより、課題決定の過程において必要となる『思考力、判断力、表現力等』が育成される」とある。特別活動の話し合い活動を学習しながら、合意形成や意志決定、主体的に考えたり判断したりすることは、各教科での話し合い活動の基本的な活動に影響があると考ええる。また話し合いが活発な状況は、多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合う態度、自分の意見を発表する態度、相手の意見を聞き入れる態度や自己実現を図ろうとする態度も養われている。意見の違いを理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係が育っていくことでグループ内での意見交流が活発になり、そのような支持的風土があるなかでの話し合い活動はより充実したものになると考える。その結果、特別活動が活発になり、話し合い活動の定着や人間関係形成を図ることは学力向上につながるであろうと考える。

II 研究内容

1 特別活動の学級活動における目標から

特別活動編において「(学級活動の目標) 学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第 1 の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す」とあり、また「学級活動において育成することを目指す資質・能力は、『問題の発見・確認』、『解決方法等の話し合い』、『解決方法の決定』、『決めたことの実践』、『振り返り』といった学習過程の中で育まれる」とあり学級会の話し合い活動に各教科の話し合いの基本的な流れが含まれている。学級活動の話し合い活動を通して各教科の話し合い活動へつなげていくことは大事である。「合意形成」を図る活動については課題に対して、留意事項として「一人一人が自分なりの意見や意志を持った上で合意形成に

*沖縄県立総合教育センター研究主事

向けた話し合いに臨むようにすることである」とある。意見を持つには、話し合いに参画する思いや、自分の考えを持つ時間が必要になる。各教科の話し合いを進める上で、学級担任及び教科担当は、生徒自身が考えを持つための時間設定や課題に対して意欲関心を持たせる工夫が必要となる。

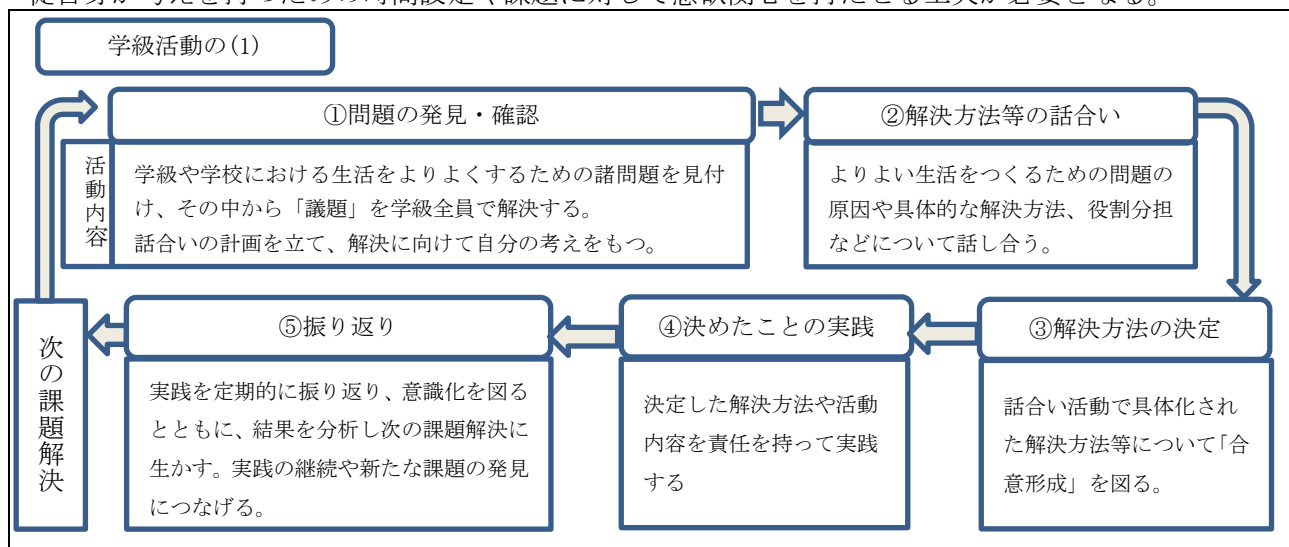


図1 学級活動の(1)における学習過程（例）（特別活動編 H29 年6月）

「学級活動の(1)における学習過程（例）図1」に①問題の発見・確認、②解決方法等の話し合い、③解決方法の決定、④決めたことの実践、⑤振り返りとあるが、各教科の話し合い活動に置き換えてみると、図2のようになる。このように、学級活動の話し合い活動と教科の話し合いは同様の過程となることがわかる。この①～⑤の学習過程を、学級活動の話し合い活動において実践し定着させることで各教科の話し合い活動の進め方が身に付くだろう。

- ①問題の発見・確認＝問題発見。
- ②解決方法の話し合い＝解決に向けて話し合い。
- ③解決方法の決定＝問題解決の方法の決定
- ④決めたことの実践＝解決方法をもとに問題を解く
- ⑤振り返り＝問題に対して振り返り 次の課題へ

図2 学級活動の(1)と各教科の話し合い活動の関係

2 「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点と話し合い活動との関係

平成29年度全国学力調査学習状況調査から、話し合いに関する質問事項の学力のクロス分析と特別活動の3つの柱「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の関係をこのデータから考察してみる。

『人間関係形成』は集団の中で人間関係を自主的に、実践的によりよいものへと形成するという視点である。課題の発見から実践振り返りなど特別活動の学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれる」（特別活動編）とある。話し合い活動を行う前にグループ内の人間関係形成が必要で「自分の意見が発言しづらい」、「相手の意見を聞かない、受け入れない」、など話し合い活動を進める上で、自分の意見が発表できる環境がグループ内で成立していなければならない。図3は「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」という質問の各選択への回答と各科目の平均正答率のクロス分析のデータである。グループ内で自分の考えや意見を発表できている児童生徒は平均正答率も高く、図4は「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の図3と同様のデータである。当てはまる児童生徒は平均正答率が高い傾向が見られる。この2つのデータから、発表し、相手の意見を最後まで聞いている様子から活発な話し合い活動が行われている様子がわかる。

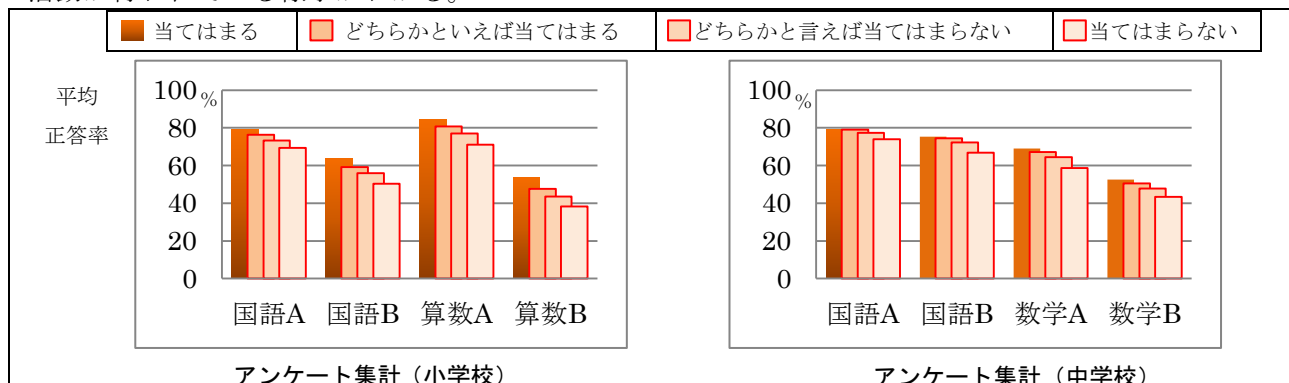


図3 「質問事項7 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」

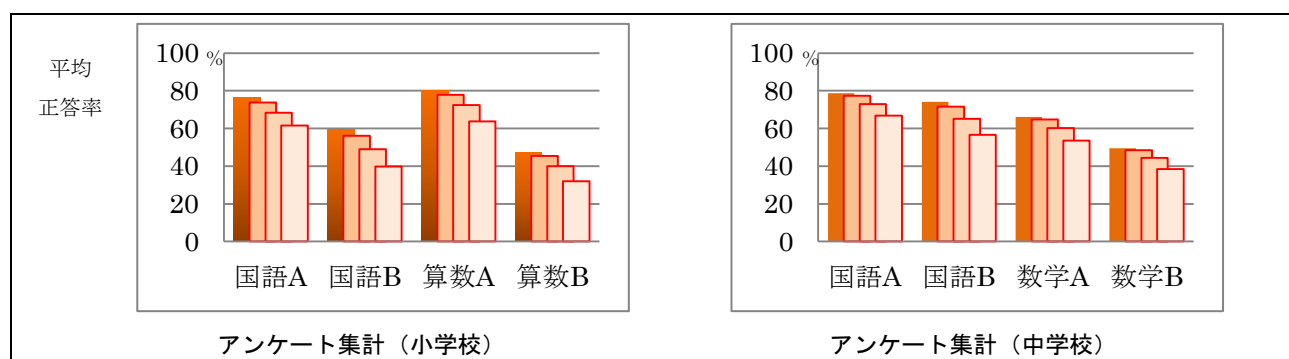


図4 「質問事項8 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」

『社会参画』はよりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする視点である。集団において、自発的・自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれる」（特別活動編）とある。主体的に話し合いに参加するには自分の意見をもつことが必要であり、話し合いの中で相手の話を聞いて自分の意見を組み立てることができないと主体的に参加することができない。図5のデータは「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか」の回答と平均正答率のクロス分析である。このデータからはグループ内での話し合いにおいて、相手の意見から自分の意見を組み立てることができる児童生徒は平均正答率が高いことがわかる。相手の意見から自分の意見を考え直し、話し合いで主体的に各教科の問題を解決しようとしている様子が見えてくる。また図3～図5のデータに関連して、自分の意見を発表し、相手の意見を聞く事ができ、自分の考えをしっかりと持ちながら話し合いに参画できる児童生徒は平均正答率が高いことから「社会参画」の視点も必要だと考える。

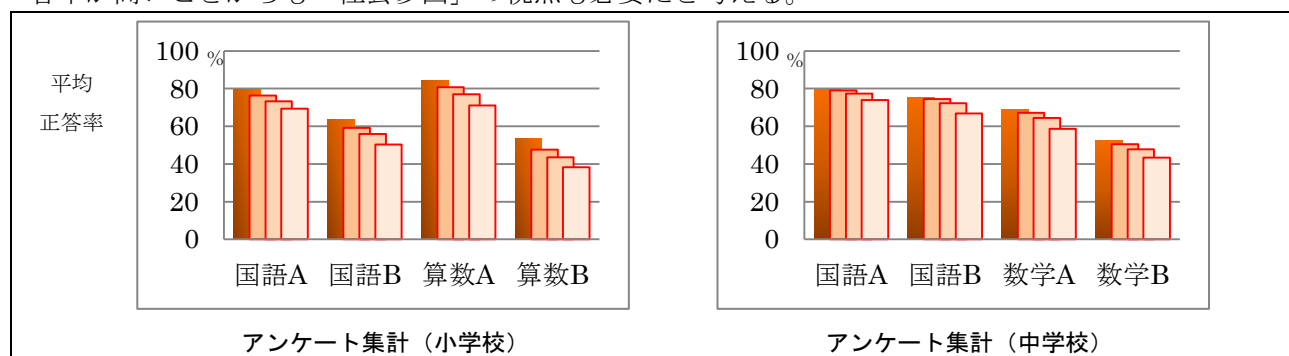


図5 「質問事項9 友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか」

『自己実現』は集団の中で、現在及び将来の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点である。集団において、自発的・自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれる」（特別活動編）とある。話し合い活動において課題解決に向かう中で自己実現が育まれていくものである。グループ活動の充実があると、新たな課題にも対応しようとする意欲も生まれ、学級活動、児童会や生徒会活動、学校行事の各課題の発見、新たな提案など限られた条件のなかでの問題解決等の場面にも対応していくことができる。また、教科内の課題に対しても同様である。各教科担当は、各学級担任との連携を図りつつ、特別活動の3つの柱「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を意識したグループ活動を進めると充実した話し合い活動になり、学力向上につながるだろう。

3 学級活動で話し合い活動の取り組みの工夫

全国学力・学習状況調査の国語A、B、算数A、Bの各4科目とも全国平均値を越えた小学校と国語A、B、数学A、B、理科の県内平均値を全て越えた中学校の話し合い活動の工夫やその影響についてアンケート調査を行った。（図6）（小学校52校、中学校43校のうち回答した学校、小学校22校、中学校16校）離島校、小規模校、中規模校、大規模校にわけて取り組み内容を分類した。忙しい業務の中アンケートに回答していただいた学校に感謝いたします。

アンケートからは、上記の各学校の話し合い活動への各学校や各担任の取り組みの中に、話し合い活動の充実と学力向上に向けた取り組みの関係が見える。校内研で職員間で共有する学校、児童会、生徒会活動の話し合いの運営や進め方、各担任や各教科での話し合いの工夫、特別活動を通して話し合い活動と各教科への影響などの多くの取り組みが見られた。

特別活動における話し合い活動と各教科における話し合い活動」に関するアンケート

1 学級活動（学級会や各行事）の中で、話し合い活動は、月何回程度実施されていますか。

2 学級活動（学級会や各行事後）の中で振り返りまで意識した、話し合い活動を行っていますか。

3 学級活動の中で、話し合い活動を勧める際、学級担任はどのような工夫をしていますか。（具体的な働きかけの事例を記入ください）

4 教科の学習を進める際、話し合い活動を行うために、どのような工夫をしていますか。

5 特別活動で話し合いを充実させることが、各教科の話し合い活動にどんな影響があると思いますか。

特別活動における話し合い活動と各教科における話し合い活動」に関するアンケート

1 児童会（生徒会）役員との話し合い活動で、どのような配慮をしていますか。

2 話し合い活動を活発に進める手立てについて、学校でどのような工夫をしていますか。

図6 アンケート質問事項

特別活動における話し合い活動と各教科における話し合い活動に関するアンケートを図7と表1～5にまとめた。

項目	規模	解答 小学校（校数）	解答 中学校（校数）
1 学級活動（学級会や各行事）の中で、話し合い活動は、月何回程度実施されていますか。 解答した学校数 離島校 小学校6校 中学校3校 小規模校 小学校2校 中学校5校 中規模校 小学校10校 中学校4校 大規模校 小学校4校 中学校4校	離島校	月1～2回（2） 月1回（3） 月2回（1）	月1回（1） 月1～3回（1） 学級活動がある際は毎時間行っている（月4～5）（1）
	小規模校	月1回（1） 月1～2回（1）	設定していない（1） 月1回（1） 月3～4回（1） 行事や必要があるときに、話し合い活動を実施 学期に1～3回（1） 月4回（1）
	中規模校	月1回（5） 月1～2（2） 月3～4回（1） 月2回（1） 無回答（1）	月1回（グループでの話し合い中心）（2） 月0～1回（1） 2月～3月に1回（1）
	大規模校	月1～2回（2） 月2回（児童主体の話し合い、または学級会）（1） 月2～3回（学級会や朝の会、帰りの会を含む）（1）	月1回以下（1） 月1回～2ヶ月に1回（1） 月1回～2回程度（1） 月2回程度（1）
	小学校（22校）	月1回（9校）、月1～2回（7校）、月2回（3校）、月2～3回（1校）、月3～4回（1校）、無回答（1校）	
中学校（16校） 設定していない（1校）、月1回以下（1校）、月0～1回（1校）、月に1回～2ヶ月1回（1校）、2ヶ月～3ヶ月に1回（1校）、月1～3回（1校）、月1回（4校）、月1回～2回（1校）、月2回（1校）、月3～4回（1校）、月4回（1校）、行事や必要があるときに、話し合い活動を実施学期に1～3回（1校）、月4～5回（1校）、無回答（1校）			
2 学級活動（学級会や各行事後）の中で振り返りまで意識した、話し合い活動を行っていますか。	離島校	よく行っている 2	よく行っている 2
		どちらかといえば行っている 2	どちらかといえば行っている 1
		あまり意識していない 2	あまり意識していない 0
	小規模校	よく行っている 0	よく行っている 0
		どちらかといえば行っている 2	どちらかといえば行っている 3
		あまり意識していない 0	あまり意識していない 2
	中規模校	よく行っている 4	よく行っている 1
		どちらかといえば行っている 6	どちらかといえば行っている 2
		あまり意識していない 0	あまり意識していない 1
	大規模校	よく行っている 1	よく行っている 0
		どちらかといえば行っている 2	どちらかといえば行っている 3
		あまり意識していない 1	あまり意識していない 1

図7 「学級活動（学級会や各行事）の中で、話し合い活動は、月何回程度実施されていますか」

「学級活動（学級会や各行事）の中で、話し合い活動は、月何回程度実施されていますか」について、振り返りは「どちらかといえば行っている」と多くの学校が取り組んでいる様子が見える。学級活動の1単位時間の中で振り返りや、話し合いで決めたことや活動の結果の振り返り、次の課題の発見につなげ、学級活動に生かしていく様子が見える。

表1「3 学級活動の中で、話し合い活動を勧める際、学級担任はどのような工夫をしていますか」

規模		分類*	アンケート回答内容
離島校	小学校	事前	・事前に自分の意見をノートやワークシートに記入し考えたのか理由もしっかりと書かせる。 ・司会シナリオを作成する。・議題を児童から出てくる場を設定し、早い段階から組み立てる。
		進め方	・子ども達（進行役）を決める。・教師の助言は最小限とし子供たちだけで話し合いが進めるように支援。 ・めあてを再確認させるなど声かける。・国語の学習と関連させて、教科書に類似した流れで話し合い活動を行う。
	中学校	事前 司会	・司会・記録・遊具（学級役員）と役割を持たせて、事前指導・打ち合わせ、生徒主体で話し合い活動を進める。 ・司会・記録・道具の担当は名札をかけて、自覚と責任を持たす。 ・4月に話し合い活動の進め方を職員会議で検討し共通確認、各学級に周知する。 （話し合いの3つのルール、議題・柱①・柱②、板書計画などを統一） ・事前アンケート個人の意見をまとめる時間を設ける。
		意見	・発言できない生徒には、自信を持たせるような声掛けを行う。 ・意見に対しても否定的にとらえるような発言はさせない。・支援の必要な子への声かけや、考えを引き出す声かける。 ・意見を付箋紙に書き、述べるときは理由付けながら伝えるよう徹底し、ホワイトボードにまとめ視覚的にする。 ・全員に意見を述べてもらい、納得いくまで話し合わせる。
		その他	・視点、考え方を尊重した声掛ける。・話し合いの視点の提示する（言語わざ）。 ・相手を意識したコミュニケーションがとれるためのアドバイスをする。
小規模校	小学校	事前	・学活の数日前に話し合いカードを児童に配布し、前もって自分の考えを書く。 ・学級グッズの活用。 ・学期はじめで議題の流れを確認し、担当グループで話し合って役割分担等を決めておく。
		司会 進行	・計画委員会の充実。・司会グループの輪番制。・ペアやグループ、全体なのか、話し合いの場の設定の工夫をする。 ・司会者が困った時の参考になるようにお助けシート（会の流れが書いたもの）用意している。 ・話し合い活動の数日前に担当グループを集め話し合いの流れを確認する。
	中学校	自主性	・記入用紙を配布し、自分の考えや意見を全員が出せる。 ・学級役員を中心に、子ども達で運営させる。
		進行	・全員が小グループで意見を出し合い集約し全体の話し合いの場へ。・段階を踏んでの話し合いを行う。 ・発表できる雰囲気になった後全体に質問や議題を投げかけ、最終的に学級全体で意見を自由に出し合う活動へと導くようにしている。・個人の意見をまとめる時間、ペアで共有する時間、全体で共有する時間を設定する。
		助言	・スムーズで協力的な話し合い活動につなげられるよう、教師の機間指導、声かけ、アドバイスを積極的に行う。 ・テーマ、目的を決めて具体的な指示をし、話がそれないようにする。
		その他	・質問する、受け入れる、からかわない等、聞き手の意識を高める。 ・グループで意見をまとめるときは、多数決ではなく、全員が納得する意見にする。
中規模校	小学校	意識	・何のために話しあうのか意識させる、事前に自分の考えを書かせ教師も目を通しコメントを書く。 ・話題がそれた場合は、めあてに戻すよう声かけをしている。 ・話し合い活動を進める際、日常生活を振り返らせるような言葉かけを意識させる。
		司会 進行	・司会のシナリオを準備しヒントカードとして活用する。 ・司会はグループ話し合いの時、様々な場面を想定、質問を子ども達に対してが実際に話し合いを具体的にイメージしながら準備を進める。・出た意見を比べ合う時に、比べ合う意見の選定と比べ合う視点を伝える。 ・時間内に意見をまとめ、司会グループと時間配分を確認しながら練習する。
		事前	・年度始めにオリエンテーションを行い、1年間で行う計画委員会を一齐に行う。 ・折り合いの付け方等についてはオリエンテーションで確認する。 ・話し合いに入る前の教師が話をする際、パワーポイントを使用、話し合いのキーワードやめあてをしっかりと確認する。
		学級 会 ノ ー ト	・学級会ノートで、自分の考えを振り返る。 ・話し合いが息詰まった時、学級ファイルを見返し、折り合いのつけ方や話し合いの進め方の資料を見るよう促し、どう意見を収束させたほうが良いのか近くの人との話し合う時間を設ける。
		その他	・意見が多く出そうな議題の場合は、グループでまとめて学級会を行う。・学級活動グッズを学校統一する。 ・子ども達に話し合いの目的意識を持たせることができるよう工夫する。 ・キーワードは話し合いが逸れそうになった時、戻ることができるように常に提示する。 ・決まったことは、必ず実行するよう心掛けている。・子ども達が主体的に取り組めるようにしている。
	中学校	事前	・学級活動(1)（学級会）で使うグッズを全学級へ配布する。 ・学級活動オリエンテーションを学年で一緒に行った（特活主任がパワーポイントを使って説明）。
		担任 から	・課題に気づくために問いかけを多くする。 ・班活動の課題を見つけ、話し合いを持ち、解決のための方法を見出し掲示する。 ・新学習指導要領で示されている「一連の学習課程」を意識して繰り返す。
		席の 形	・議題も学年で統一、全学級同時にコの字型の学級会を行う。 ・話し合う内容によって、座席をグループ席にする。
		その他	・話し合った内容を週の学級通信に掲載し全員で意識して取り組む。 ・多様な意見が出るように、意見が出たら褒める。 ・特定の生徒だけではなく、多くの生徒が意見を出せるよう声掛けを行っている。
大規模校	小学校	意識 事前	・学級の課題で「自分たちで解決したい」と思わせるように、4月に立てた学級目標を意識させながら声かける。 ・めあてや提案理由にあった意見や考えを述べる事前指導（発表できない児童はファイルに発表用のワークを貼る）。 ・話し合いの内容を数日前から伝え、自分の意見を持って授業に参加する。
	中学校	司会	・司会等の役割を事前に分担し、話し合い活動の流れを考える。 ・話し合いを進める上で、話し方や聞き方のルールを確認、各自が気持ちよく自分の意見を言える雰囲気づくり。 ・児童が主体的に話し合う時間を多く設けるために事前の準備やシナリオを作って、司会団がスムーズに進められるように気をつける。・学級クイズを使い、板書を見やすく簡単にしている。

*分類 内容に合わせて表示

「学級活動の中で、話し合い活動を進める際、学級担任はどのような工夫をしていますか」で各規模共通して事前の司会へのアドバイス、打ち合わせ等、学級担任は時間内に話し合いの進行や自分の考えをノートに記入させる等、意見を出し合えるための手立てが多く見られる。小学校では話し合いを進めるためにグッズをそろえている。意識を高めるために「何のために話しあうのか意識させる、事前に自分の考えを書かせ教師も目を通しコメントを書く」「学級の課題で『自分たちで解決したい』と思わせるように、4月に立てた学級目標を意識させながら声かけ」等の良い取り組みがある。

表2「4 教科の学習を進める際、話し合い活動を行うために、どのような工夫をしていますか」

規模	分類	アンケート回答内容
離島校	小学校	進め方 ・ペア→グループ→全体。 ・ペアやグループ構成を意図的。 ・話形表の提示する（低学年においては、児童の机に貼る）。 視点意識 ・活動を行う前に、話し合いの視点を的確に伝える。 ・話す側と聞く側の視点も与える。 ・司会を持ち回りにし、児童にも司会と話し手の両方を何度も経験させる。 ・話し合いの目的意識を持たせる。 ・話し合いの視点を与えるよう意識させる。 ・話し合い方の話形を提示、お手本として自分の考えを伝える工夫。・話し合いのペアやグループを席で決めている。
	中学校	進め方 ・自分の考えをしっかりと持っているかを確認し、ペアやグループ等の話し合い活動を行う。 ・ICTや関連資料を活用する。 ・ジグソー活動。 ・話し合いの視点をきちんと説明する。 ・授業最初に「前時のまとめと振り返り」をペア学習で実施する。 ・ペアやグループを適宜に変え多様な考えに触れる。・一人ひとりが発表できる時間を設ける。 ・学級活動や全体特活での話し合い活動では、「話し合いの3つのルール」を守るように求める。3つの「ルール」については、特別活動だけではなく、各教科の交流活動（ペア・グループ）においても自他の意見（考え）を訊き合う上で重要であるということを全職員で確認している。
小規模校	小学校	環境 ・対話へと誘う「めあて」の設定する ・学び合う仲間。・同程度で話し合い活動できるようなグループ編成。 ・支持的風土の醸成。 ・交流する場を設け、その際、司会を決めて進めて、全体の話し合い活動へとしている。 進め方 ・授業の展開に応じた交流の場の設定する。 ・ペア学習やグループ学習の効果的な設定する。 ・話し合い活動を行うための課題設定（教材研究）。 ・算数は友達や自分の考えを図や式、例を挙げ、またさし示しながら話し合うように意識させている。 ・外国語活動は、デジタル教科書の動画を見て聞き取れたことをペアで共有・確認し再度聞かす。
	中学校	進め方 ・ペア、小グループで意見交換し、全体でそれを共有する。 ・自分の考えを小グループになって話し合い、他者と比較、共有する場を多く持つようにする。 ・4人程度の少人数グループ編成。 ・設問を多くせず、個人の時間、学び合いの時間を区切る。 ・「一人で考える→グループで考える→全員で共有する」など様々な形態を利用し、自分の意見を言いやすい雰囲気づくりを行う。 ・自分で考える時間を設ける。 環境 ・活動の前に、話し合いや意見を述べるうえで必要となる基本的な表現を最初で提示し、誰でも気軽に意見が述べられる雰囲気をつくる。・話し合う内容を明確にする。 ・グループでの話し合い活動は、進行・記録・発表者など全員に役割を与え、活発な話し合いになるように環境づくりを行う。・立場の明確化（賛成 反対 その他 わからない を明示させる）。
	小学校	意識 ・何のために話しあうのか意識させる。事前に自分の考えを書かせ教師も目を通しコメントを書かせる。 ・話し合い活動を進める際、日常生活を振り返らせるような言葉かけを意識させる。 司会 ・司会のシナリオを準備、ヒントカードとして活用する。 ・司会グループ話し合いの時、様々な場面を想定した質問を教師が子ども達に対して行い、子ども達が実際に話し合いを具体的にイメージし準備を進める。
	中学校	進め方 ・出た意見を比べ合う時に、比べ合う意見の選定と比べ合う視点を伝える。（司会グループの選定ミスや話し合いの練り合いが必要な場合）。 ・息詰まった時、学級ファイルを見返し、折り合いのつけ方や話し合いの進め方の資料を見るよう促し、意見を収束させたほうが良いのかの話し合う時間を設ける。 ・意見が多く出そうな議題の場合は、グループでまとめて学級会を行う。 ・子ども達に話し合いの目的意識を持たせることができるよう工夫させる。 ・キーワードは話し合いが逸れそうになった時、戻ることができるように常に提示する。 ・決まったことは必ず実行するよう心掛けている。・学級会ノートで自分の考えを振り返る。 事前 ・年度始めにオリエンテーションを行い、1年間で行う計画委員会を一斉に行う。 ・時間内に意見をまとめられるよう司会グループと時間配分を確認しながら練習する。 ・学級活動グッズを学校統一して、子ども達が主体的に取り組める。 ・話し合いに入る前の教師に話をする際、パワーポイントを使用、話し合いのキーワードやめあてをしっかりと確認する。 ・折り合いの付け方等についてはオリエンテーションで確認している。
中規模校	小学校	意識 ・何のために話しあうのか意識させる。事前に自分の考えを書かせ教師も目を通しコメントを書かせる。 ・話し合い活動を進める際、日常生活を振り返らせるような言葉かけを意識させる。 司会 ・司会のシナリオを準備、ヒントカードとして活用する。 ・司会グループ話し合いの時、様々な場面を想定した質問を教師が子ども達に対して行い、子ども達が実際に話し合いを具体的にイメージし準備を進める。
	中学校	進め方 ・出た意見を比べ合う時に、比べ合う意見の選定と比べ合う視点を伝える。（司会グループの選定ミスや話し合いの練り合いが必要な場合）。 ・息詰まった時、学級ファイルを見返し、折り合いのつけ方や話し合いの進め方の資料を見るよう促し、意見を収束させたほうが良いのかの話し合う時間を設ける。 ・意見が多く出そうな議題の場合は、グループでまとめて学級会を行う。 ・子ども達に話し合いの目的意識を持たせることができるよう工夫させる。 ・キーワードは話し合いが逸れそうになった時、戻ることができるように常に提示する。 ・決まったことは必ず実行するよう心掛けている。・学級会ノートで自分の考えを振り返る。 事前 ・年度始めにオリエンテーションを行い、1年間で行う計画委員会を一斉に行う。 ・時間内に意見をまとめられるよう司会グループと時間配分を確認しながら練習する。 ・学級活動グッズを学校統一して、子ども達が主体的に取り組める。 ・話し合いに入る前の教師に話をする際、パワーポイントを使用、話し合いのキーワードやめあてをしっかりと確認する。 ・折り合いの付け方等についてはオリエンテーションで確認している。

大規模校	小学校	進め方	・グループ交流の際は、時間を意識し、司会やタイムキーパーの役割を作って、スムーズに進行できるようにする。 ・毎時間の発表者を変え、全員がなるべく全体の前で発表できるように仕組みづくり。 ・話し合いの視点を伝える。 ・違いを明らかにし、問題を比べやすく出し、考えを出し合うことができるようにしている。
		意見交流	・話し合いの視覚化（出し合い→比べる→決める）を行い、スムーズに進めるようにしている。 ・グループ学習、ペア学習を進め、「自分の考えを伝える」だけではなく「友達の意見を聞く」ことを重視している。 ・話し合いの視点を明確に提示して、話し合わせている。 ・自分の意見をノートに書き、ペアやグループなど少ない人数で意見交換を行い、全体での話し合いを行う。
	中学校	進め方	・ペア学習、グループ学習などの様々な形態で話し合う。 ・係りの割り当てをする（記録、計時、発表）。 ・ホワイトボードを使って、まとめ・発表をしやすくする。 ・単元の学習計画の中で、話し合い活動の時間を設定。 ・短い時間を活用してペアで話し合いをさせる。 ・生徒の学力に応じたグループ編成。 ・話し合う時間等のタイムマネジメント。

「教科の学習を進める際、話し合い活動を行うために、どのような工夫をしていますか」ではペア学習からグループ学習、全体の話し合い活動へ展開する。ホワイトボードの使用や司会や記録等の係り分担も見られる。担任から話し合いの視点を的確に伝える。話し合いの視覚化など話し合い活動が進行しやすくするための工夫が多く見られた。「グループ学習やペア学習を進める際に『自分の考えを伝える』だけではなく『友達の意見を聞く』ことを重視」等は良い取り組みである。

表3「5 特別活動で話し合いを充実させることが、各教科の話し合い活動にどんな影響があると思いますか」

規模		分類	アンケート回答内容
離島校	小学校	変容	・各教科における話し合いの場面でもスムーズに行えると思う。 ・体育と音楽、全児童で授業を行い、授業で話し合う場面があると、自然と高学年が司会的役割を担い、話し合いが進む。 ・自分の考えを言いやすい雰囲気を作る。 ・話し合いの仕方が分かり解決できることを実感する、分からなくなった時「話し合いたい」という意欲につながる。 ・意見の述べ方、話し合いの進め方に慣れ、各教科の話し合い活動を抵抗なく行える。 ・自分の意見を考えたり、友だちの意見を聞いて考えなおしたり深めていく事ができるようになると、各教科でも主体的な話し合い活動につながっていくと思う。
		指導要領から	・学習指導要領にも明記され、児童同士の話し合い活動や自主的・実践的に活動することを特質している。特別活動における「主体的・対話的で深い学び」は、話し合い活動を通して自ら課題を見だし、解決方法を決めて自主的に実践することであり、各教科においてもそれは有効である。特別活動での話し合いを充実させることで、各教科の「主体的・対話的で深い学び」が支えられていると考える。
	中学校	変容	・「自分の意見が受け入れてもらえる」雰囲気がつくられれば各教科の授業で、自分の意見に自信を持って発表することができると思う。 ・互いに認め合う、考えを表現できる雰囲気ができる。 ・話し合いの型を統一するとどの場面でも話し合いの基礎基本を身に付け、教科での共通実践にもつながると思う。 ・話し合い活動を繰り返すことで、自分の意見を出す、人の意見を受け入れることが、自然に身に付いていくと思う。 ・進行経験者が増えるので活発な話し合いができる。 ・決定→実行するとよくなるのがわかっているので責任をもった話し合いができる。 ・「話し合い活動」で自分の意見を「根拠（理由）」を明らかにして述べることは、教科の交流活動において自分の考えを根拠を明らかにして表現する「論理的な説明」につながる。 ・全体特活での異年齢での話し合い活動は、学級活動や各教科で自らの意見を考え、伝えることへの積極性や主体的な活動へつながると考える。
小規模校	小学校	態度	・自分の意見や考えだけを主張するのではなく、相手の意見や考えを聞き認める事ができる。 ・友達の考えをしっかりと聞き、自分と異なった考えも受け入れる態度を育てることができる。 ・自分の思いだけではなく、他者の意見も受け入れることができるようになる。
		支持的風土	・話し合い活動の進め方がスムーズになる。 ・特別活動で話し合いの進め方や聞く姿勢を育て、学級経営にも結び付き、各教科の話し合い活動も支持的風土の中で行うことができる（児童が意見を言いやすい雰囲気）。 ・学級の人間関係が生活の適応や学力に強く関係。安全・安心な環境で学ぶことが大切である。その上に支え合う仲間がいて学ぶ雰囲気が醸成されていく。そのためには特別活動での話し合いを充実させることが必要だと思う。
	中学校	支持的風土	・相手に伝えるために、言葉や相手の表情を見ながら話し合いをすることで、知の側面だけではなく心の側面も育つ。 ・互いに協力、協同的解決につながる学習環境を築く事ができる。 ・個人個人の意見を言いやすい雰囲気が作られる。 ・学級の支持的風土づくりにつながり、各教科での学習で、協力、教え合う、相談し合う、活発な活動につながる。
		影響	・話し合い活動の流れが分るので、授業で取り組んでも戸惑いが少ない。 ・新たな視点の提示ができる。 ・意見を深め合うことができる。
中規模校	小学校	変容	・相手の意見を尊重する態度が育つ。 ・自分の意見をしっかりと言えて、相手の意見を聴けるようになる。 ・自分の考えを率直に言える子ども、各教科の練り合いの場面で充実した意見のやりとりを行える子どもの育成する。 ・自分の考えを伝える、相手の考えをみとめることができる。 ・合意形成の仕方を学べる。 ・自分の意見を相手に伝えることや、相手の話をしっかりと聞くこと。 ・自分の意見を言いやすくなり、自然に自分たちで問題解決をしようとする。 ・全ての教科の学び合いの活性化につながる。 ・場面に応じて自分の考えを的確に話す。 ・教師主導や一对一の授業ではなく、子ども同士で学び合える雰囲気をつくることができると思う。

中規模校	中学校	支持的風土	・特別活動は学級経営の要。より良い学級生活を目指す活動を通して学級集団の協働性を高める。役立つ喜びを実感し、互いのよさを認め合う活動で、一人一人が大切にされる。支持的風土をつくることにつながる。 ・学級全体で意見を言い合えることのできる雰囲気ができる。 ・自分の意見を言ったり友達の意見を聴いたり、合意形成を進める、学級の支持的風土が高まる。 ・グループ活動での話し合いで、学級全体での話し合いの手法を取り入れることで話し合い活動がスムーズに進行する。 ・よりよい人間関係の育成は学び合う学級の雰囲気をつくり、学ぶ意欲が高まる。話し合いの充実には各教科の学力向上の根幹をなす非常に重要な要素である。 ・自分の意見を持ち、意見を人に正しく伝えることで、話し合い活動の中で自信のない答えでも話し合い活動に参加できる。 ・習得すべき内容理解が深まる。互いに意見を出せるようになると、教え合い、分かち合いができるようになる。 ・話し合いを充実させることには各教科で話し合いが必要、自然と話し合いをリードする子どもが出てきたり、自分の意見を言うことに抵抗感を感じる児童が少なくなり、話し合いがスムーズに進むようになる。
大規模校	小学校	変容	・児童主体で意見の交流ができる。 ・課題解決の意識が生まれ、物事に対して自分事として考えられるようになる。 ・国語や道徳では、正解のない答えに対して、様々な意見の交流ができる。体育は、運動の上手い下手に左右されず、ゲームの作戦を考え、上達のヒントを児童同士で交流することができる。 ・自分の考えや意見に自信が持てる（支持的風土）ようになり他教科でも相手の意見を受け入れる態度が身に付く。 ・折り合いをつけることで一方的なものの方から多面的な見方へ変容すると思われる。 ・互いの意見を聴き合う関係が築ける。 ・話し合いでともに学ぶ経験を積み、話し合いのよさに気づく。その活動を通して自己有用感や学びに向かう力を育む。
	中学校	変容	・自分の感想述べたり発表するなど、思いや意見を述べることへの抵抗感が薄まる。 ・自分の意見や考えを積極的に持とうとする。 ・各教科の活発な話し合い活動につながると思う。 ・話し合い活動の方法を知り、慣れたら、各教科の話し合い活動もスムーズに展開できる。 ・話し合い活動の機会を増やし、話し合いのルールや進め方が身に付き、話し合いがスムーズに進められ、自分の意見を発表、周りの意見を聞いたり、受け入れる雰囲気もできる、いい影響はあると思う。 ・自分の意見と他の人の意見を融合させることで、深い学びにつなげることができると思う。

「特別活動で話し合いを充実させることが、各教科の話し合い活動にどんな影響があると思いますか」では同様な変容が小中学校とも多く見られた。例えば「話し合いの仕方が分かり解決できることを実感する、分からなくなった時『話し合いたい』という意欲につながる」「自分の意見を考えたり、友だちの意見を聞いて考えなおしたり深めていく事ができるようになると、各教科でも主体的な話し合い活動につながっていくと思う」「自分の意見や考えだけを主張するのではなく、相手の意見や考えを聞き認める事ができる」とある。特別活動での話し合い活動を充実させることで、自分の意見を伝える、相手の意見を聞いて考えることができる、相手を尊重できる、折り合いや、合意形成へと進めやすい、などの各教科へよい影響を与えていると考えられる。

表4 「1 児童会（生徒会）役員との話し合い活動で、どのような配慮をしていますか」

規模	分類	アンケート回答内容
離島校	小学校	責任感 ・各行事運営で、「何のためにするのか」、「児童会役員としてできることは何か」、を考えさせ、子ども達から引き出せるように意識している。 ・児童が主体となって諸児童会行事の立案から行事運営までさせる。 ・児童の主体性を重視し、子どもの発展、アイデアを大切にします。
		進め方 ・意見を出しやすい雰囲気づくり。 ・自分の意見を主張しながらも相手の意見を尊重する態度の育成。 ・話し合い活動の際は、学級会のように司会用のシナリオを活用しながら薦めている。
		取組 ・幼稚園児から中学生までの子どもたちで構成する縦割り班をつくり、教師の指導の下に朝活動やボランティア活動など様々な場面で活動。参加の意欲や自主性を持たせるため、活動のはじめに確認し終わりに振り返りを毎回一人発表する。・PDCAサイクルの実践。
	中学校	自主性 ・話し合い活動や行事は、担当として同席はしてもあまり口出さない。アドバイス程度生徒の意見をださせる。 ・話し合う内容のレジュメを用意、生徒だけで話す合いが進められるようにしている。 ・話し合いのときに生徒代表であることを自覚、全体のことを考えて企画・運営できるような声かけをしている。 ・生徒会活動はある程度担当教師で案を出し、生徒会執行部、中央委員会で検討・決定して実行している。
		進め方 ・事前に、中央委員会を開き、改善点、今後の取り組みについて議題提案を行う。 ・記録を残しつつでも見返せるようにしている。 ・話し合い活動や生徒会活動（行事）の前は、シナリオを用意し、生徒会長と打ち合わせ。 ・行事や集会の司会や生徒代表あいさつは順番に行い、人前になるチャンスを広げている。 ・学校・生徒会行事で、生徒会執行部だけではなく、内容によっては他の専門委員会に運営や進行を任せる。 ・行事等の運営を始める前、必ず行事の「めあて」を確認を行う。
小規模校	小学校	責任感 ・事前に役員に諸行事等への趣旨を十分に理解、役員としての役割や責任を十分に理解させている。 ・役員が主体的に取り組めるよう手立てを工夫し、活動への好意性を高める。その積み重ねが前向きで積極的児童会活動へとつながる。 ・全校生徒の前での活動は、事前にしっかりと準備、自信を持って活動できるようにしている。
		進め方 ・話し合いのねらいを明確、1回目は伝達、次は各学級での話し合い、児童会での決議ができる流れをとる。 ・司会進行がスムーズになるよう、児童会役員は前もってシナリオをつくり、司会も記録も役割分担し交代で行う。

小規模校	中学校	自主性	・事前に話し合いを持つ前に執行部だけのミーティングを開催、企画・提案を行う。話し合いは、時間確保のためランチミーティングで行う。 ・生徒の司会進行は意見が述べやすい雰囲気ができ、いろいろな視点から率直な意見がでる。 ・生徒主体の取組になるようはじめの提案から。
		進め方	・発達段階の異なる5学年で生徒会が構成されているので、一人一人の意見をしっかりと伝える時間を確保している。 ・学校行事などで生徒が自主性を発揮し、集団としてまとまりのある行動を行うため、実施要項案を作成し細かい役割分担を行っている。個々の特性や役割を配慮し、いろいろな経験ができるように心がけている。 ・行事ごとの目標設定や振り返りを行っている。 ・異学年同士でペアを組み、上級生がリードしたり、下級生の意見をしっかりと聞いていくことを行う。 ・生徒総会等で議論が活発になるよう、シナリオの確認、リハーサル等は役員と共に丁寧に行う。 ・発言者や回答者の心情に配慮し、丁寧に話し合いを進めるよう助言を行う。
中規模校	小学校	進め方	・1年生～6年生まで全ての児童が参画、テーマ（運動会等）を決め、低学年も各学級で話し合いができるよう役員と話し合って工夫している。 ・一人一人が自分の意見をしっかりとと言えるようにする。 ・活動期間の中でやれる事とやれない事を伝える。 ・めあてを持たせて話し合い活動を行う。
		自主性	・子どもに何をしたいかどんな方法があるのかを考え、子ども達の意見を尊重する。 ・解決したいことを年度始めに話し合い、アイデアの提供を行っている。 ・質問させるようにして、子ども達の自主性を尊重した活動にする。 ・自分たちから自発的に行事に向けての取組ができるような言葉かけをする。 ・子ども達の「やらされてる」という意識ではなく、「やりたいからやる」という意識を持ってくれることを目標とする。
		責任感	・リーダーとしての立ち位置や役割等を意識させ、関係づけた発信（意見をもつよう）を意識させている。 ・行事などに向けて大まかな内容は説明し自分たちで話し合わせる。 ・確認を任されている事を意識させた声かけを行う（責任感）。 ・学校の顔として活動のために、教師の指示待ちではなく、自分たちでできること、やらなければいけないことを常に考えるよう伝える。
	中学校	意見を持つ	・自分の意見を持って臨む、自分の意見を言う、チームとして建設的な意見を言うことを確認させる。 ・提案事項や意見の時、理由、根拠をしっかりと伝えるように意識させる（説得したり、説得させるプレゼンを意識）。 ・一人一人が意見を言う場を設ける。 ・テーマを事前に告知、話し合いに意見を持って参加するようにさせる。 ・限られた時間内で最大限活動するにはどうするかという共通の視点、認識を持ち、話し合いでは受容的、前向きな意見がでるような雰囲気、環境づくりを行う。
大規模校	小学校	進め方	・できるだけ生徒のみで話し合いを進められるように、会長と事前に打ち合わせをしている。 ・話し合い活動では、全員に意見を発表させる。
		計画性	・年間行事に見通しを持たせ、カレンダーを使って行事の見通しを視覚化する。 ・児童主体で活動が進むように、1ヶ月以上前から声かけやシナリオの作成の手伝いをしている。 ・タイムスケジュール（行事の時）の意識を持たせる（何かあった時の対応に備えて）。 ・月1回の委員会活動日に1カ月の見通しを持たせて活動を行う。 ・朝や休み時間に児童で声を掛け合い、自分たちで活動を進める。 ・行事の振り返りをできるだけ早い時期に行い、反省点等をまとめ、次の行事に生かす。
	中学校	その他	・子供の自主性。 ・児童のアイデアから提案できるように、行事の前に声かけを行っている。 ・リハーサル（場の慣れ）を通してのどんな時（場合）でも対応を意識させる（臨機応変）。
		事前	・話し合い活動は3年生から積極的な話し合い活動を展開するように事前の確認を行う。 ・後輩にも役割を分担し協力して運営することで、自主的に話し合いに参加できるようにした。 ・異年齢の生徒同士の交流の場で、話しやすい（自分の意見を出しやすい）雰囲気づくりとしてアイスブレイクを行う。 ・事前に議題の内容を伝え、前もって考えや意見を準備させ、円滑な話し合いができるようにしている。
		雰囲気	・生徒会長を中心に話し合い活動を進め、先輩、後輩の関係はなく、意見を伝え合える雰囲気づくりをする。 ・生徒会活動で話し合い活動を特に意識していない。 ・自治的な活動をさせる事で自分たちで話し合い、行事の取組活動を行う。
	その他	その他	・話し合い活動は、各学年での諸問題を全体で確認、話し合いの課題を設定、解決に向けて話し合う、学校全体の問題として捉えることができた。 ・生徒から意見を引き出すためにテーマを明確にして話し合い活動を進める。・顧問は助言をする立場を示す。

「児童会（生徒会）役員との話し合い活動で、どのような配慮をしていますか」では、児童生徒が自主的な活動や責任感を持たせる手立てがあり、例えば「子どもに何をしたいかどんな方法があるのかを考え、子ども達の意見を尊重」「話し合い活動や行事は、担当として同席はしてもあまり口出さない。アドバイス程度生徒の意見をださせる」がある。小中学校とも話し合いの進め方では自主性を重んじ、話し合いがしやすい雰囲気づくりを意識して担当は配慮している。責任感では「各行事運営で、何のためにするのか考え、児童会役員としてできることは何か、子ども達から引き出せるように意識」「全校生徒の前での活動は、事前にしっかりと準備、自信を持って活動できるようにしている」などがある。計画を全児童生徒との関わりを持たせることで、児童生徒は話し合いの目的をしっかりと持ち責任感や社会参画を促すことになる。事前指導、見通し（計画性）を持たせることで、話し合いの時間の確保、アイデアをしっかりと考えることさせる事ができる。規模ごとに児童会、生徒会の構成人数は違うが、各学校の取り組みの工夫や各担当の配慮が多く見られた。

表5「2 話し合い活動を活発に進める手立てについて、学校でどのような工夫をしていますか。

規模		分類	アンケート回答内容
離島校	小学校	独自の取組	・Hっ子会議（全児童参加）を定期的に開催、会議の前に学級で話し合い、実践、ふり返り、改善を図る取組を全校体制で推進。 ・低学年は、朝の会、帰りの会の司会等から慣れさせ、話し合い活動の司会等につなげられるよう声かけをする。 ・朝の始業前に小中縦割りの8人程度のグループでボランティア活動を行わせ交流を図る。 ・長休み（昼休み）の時間に校長室で全児童が集まり、学校の課題について話し合う、子供たちが積極的に意見を交わし、工夫して課題に取り組みました（平成29年度）。畑の活用について校長から提示し、どうしていききたいのか6年生を中心に話し合い、自分たちでグループ分け（9名）をして畑を耕し、種を植え、管理・収穫、収穫したものを給食の食材へ、地域の方に購入していただいた。異年齢の児童で話し合う機会を特別活動もいかしながら他の場面でも管理職も協力しながら行い、自分の意見を言える雰囲気づくりに努める。
		校内研	・校内研修の中で少人数複式学級における発達段階を見通したガイド学習を取り入れ、低学年は、「ガイドで進行する力を身につけさせる」中学年「ガイド中心となった学び合い」高学年は「ガイド進行し、意見を吟味できるようにする」ことを目的とし、学び合いや練り合いの場面を授業の中で多く設定、思考を深めることができるようにしている。 ・各教科では、学び合いによる話す場（聴き合い→話し合い）を重視し、定着してきており、（校内研でも重視している）成果が見られる。
		その他	・教科等においても話し合うための視点を提示し明確にしている。 ・自分の考えや思いを安心して表現できる温かい人間関係が形成される。学級経営、教科経営の充実を図っている。 ・自分の考えを言う前に、自分の考えを理由や根拠を書かせる活動を充実させている。 ・教科外（全校朝会・各行事等）もふりかえりを発表させたり、書かせたりする。 ・質問できる力の育成を目指す。話し合い活動を行う場を設定し、少人数・異年齢の話し合い活動を行う。 ・子供たちからやりたい取り組みを話し合いで決め、担当者が職員会議に提案、全児童・職員でレクを行い、子供たちの工夫が随所にあり、とても充実したものに。子供たちを褒める、認める機会となり話し合い活動の良さが表れたものとなりました。 ・日課表の朝会の中でスピーチ朝会を位置づけ、自分の考えをまとめ発表することを行う。児童には結論先行型の発表を意識させ、できる限り原稿を覚えさせるようにしている。聞き手には、発表に対する質問、感想の発表を毎回行う。
	中学校	支持的風土	・お互いに認め合い、支え合う風土（支持的風土）の醸成を普段の授業の中で行う。 ・自分の考えや思いを安心して表現できる温かい、人間関係が形成される学級経営、教科経営の充実を図る。
		取組	・学級活動、道徳授業の充実。 ①週時程に担任会を設定。OJT（道徳の授業）の実施。 ②相手を意識したコミュニケーションがとれるように指導。 ・定例に生徒会専門委員会活動日は、職員は必ず参加し、話し合い活動の指導支援を行う。 ・生徒発表（1分間スピーチ）の実施と発表者への感想を記入させ発表と掲示を行う。 ・あいさつ活動の実践と場に応じた言葉使いの指導支援。・必ず各班の発表の機会を設ける。 ・グループ編成の工夫（人間関係・バランス）。・管理職による授業参観後授業者へ助言。 ・朝の始業前に小中縦割りの8人程度のグループでボランティア活動を行わせ交流を図る。
		校内研	・県教育委員会指定「生徒指導研究校」で特別活動を研究の中核として掲げている。「話し合い活動」を推進するにあたり具体的に学校で取り組んでいる。①全校生徒（26名）の小規模校、全学年合同の全体特活を主として話し合い活動に取り組む。＊本年度（11月30日現在）学級会活動「話し合い活動」4回、全体特活「話し合い活動」8回。 ②全体特活の話し合い活動は、生徒会専門委員会単位、あるいはマイガフ班（異年齢縦割り班）単位のグループ構成を基本。 ③全体研究会において、学級活動の内容項目(1)～(3)の「話し合い活動の基本パターン」を全職員で確認し、指導案についても検討会（少人数 関係職員）を開催している。 ④話し合い活動の「議題」の選定には、生徒に決めさせてよいものを議題として選定している。 （例 学級目標（係活動）を決めよう生徒会の重点目標を決めよう おじい・おばあの運動会を盛り上げよう）。 ⑤話し合い活動の時間は、生徒の自発的・自治的な活動を促す意味でできるだけ生徒に任せる。前後の中央委員会等においては、教師の指導や助言も必要に応じて取り入れる。
小規模校	小学校	校内研	・校内研修で特別活動の話し合い活動についての研修を行う。 ・校内研修のサブテーマに「子どもの思考を深める授業づくり」を設定し、「問い」をもつための問題提示の工夫、めあての設定の仕方、他者との関わり方や交流の質を高めるための手立てについてこれまで取り組んできた経験があり、各人が意識して日々実践している。 ・「発問」についても校内研修で焦点化して取り組んでいる。さらに、「思考・判断・表現」を高めるための交流の場面の設定について研修を深めたい。
		その他	・学校での話し合いの活動の進め方について、発達段階を踏まえ全学年をつないでいく。 ・年計を廊下等（各学級）にはり、児童教師どちらも次にどんなことを話し合うのか把握できるようにしている。 ・年間計画を見通せるようにしている。・学級活動コーナーをつくり、話し合うこと、決まったことの掲示。
	中学校	校内研	・校内研究のテーマを「9年間の学びをつなぐ教育活動の実践」「一思いや考えを伝え合うことができる子の育成」「英語教育推進研究部」「授業改善研究部」「言葉の力育成研究部」の3研究部で、下記の4つの重点事項の実践を通じて研究を進める。○英語教育推進・ICTを活用した授業実践 ○NIE・思考ツールを活用した言語活動の充実○コミュニティ・スクールとして地域資源を活用した授業実践。上記の研究内容が話し合い活動と深くかかわっているため、「話し合い活動」を特別活動における話し合い活動と分けて考えるのではなく、各教科、朝のチャレンジタイム等、学校生活全般で取り組む活動と捉えている。授業観察等での振り返りでは、話し合い活動の量や質について助言するようにしている。話し合い活動には支持的風土の醸成が重要であると考え、「iチェック」を導入し、客観的なデータによる学級経営の分析ができるよう支援している。 ・「対話」を重視した「学び合う授業」による「確かな学力」の向上を本年度の重点取組とし、各教科や諸活動の中で対話を意志した取組を推進する。

小規模校	中学校	校内研	・「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり」～ICT 機器などを活用した情報の共有を通して～を校内研修のテーマとして3年間取り組んでいる。生徒一人一人にタブレットが配布され、それを活用し、各教科、電子黒板にて個人やグループ発表を行い、話し合い活動を頻繁に行っている。 ・授業改善を行う上で「目指す授業像」を『他者と関わりながら、課題の解決に向かい、「問い」が生まれる授業』と設定し授業中「他者」との交流を通して、「問い」が生まれ、自分の考えを広げ深める様、言語活動の充実努める。 ・集団作り、自主性を高める取り組みの充実を図るため、(1)お互いの良さを認め合い、考えを交流させる授業展開。(2)共感的な人間関係を生かした授業実践。(3)話し合い活動、所属感や自己有用感を育む行事の実行等に取り組んでいる。 ・各教科等は各種教育活動との関連を意識した話し合い活動の指導の充実を図り、特に総合的な学習の時間において、各学年も課題探究活動を実施しており、その活動の中で個人、グループでの課題設定や発表時における話し合い活動の充実を推進している。
		その他	・現在、企画中ですが、PTA 役員（保護者）と生徒会との意見交換を設定しようと考えている。生徒から保護者、保護者から生徒への要望などの話し合いを行い、学校に反映できたらと考えている。 ・国立教育政策研究所から発行「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動」を参考資料として活用する。 ・「ロイロノート」を主に使用。その際、全職員対象の講習会を実施している。 ・学級・学年・学校行事において、教員側が主導するのではなく、生徒主体で自主運営できるように、全職員共通認識を行っている。生徒には話し合い活動を通して綿密に計画を練っていきけるよう、教師側のサポート体制を整備している。
中規模校	小学校	校内研	・校内研は何のための言語活動なのか明確にするよう視点の中に位置付ける。 ・校内研修等において講師を招聘し手立てとなるヒントを学んでいる。 ・特活の充実（学級活動）が研究テーマなので、小中合同で話し合い活動の活性化に取り組む。 ・講師 本校職員（特別活動の分野を得意とする教諭）校内から講師を選出する意図、研修終了後の校内OJTの活性を期待し、所属する教諭の特性を鑑み講師及び校内研を企画する。 ・校内研（国語）「説明的文章の学習における対話的な学びを通して」の研究や経年研における授業研究、管理職による授業参観、当初面談等において、教頭の視点として1時間の授業のなかにおける「交流活動の位置付け」、それを支える学級の「支持的風土の醸成」を設けており、年間通して一貫した指導・助言に努める。
		進め方	・今年度は、児童会を中心に2年生から6年生までの班（縦割り10班）を編成、「朝活大作戦」と称し委員会活動の活性化に努める。「どんな活動をするのか（活動計画・実施・反省）」「どんなイベントをするのか（班独自のお楽しみ会）」等、6年生を中心として自発的な話し合い活動を進める。子ども達の意見を尊重し、教師は朝活大作戦のサポート役に徹している。・朝会（生活朝会）で最後はとなり同士、話しの内容等の確認をさせる。学級において話し合い活動がスムーズに行くようにしている。
		共通	・話し合い活動が活発になるよう今年度は学級会グッズを全学級揃えた。 ・特活主任を中心に学級活動に活用する掲示物等のセットを準備する。 ・教室に学級活動に関する掲示物のコーナーを確保、学級会活動を子ども達が意識して取り組めるようにする。 ・話し合い活動で有用な掲示物（板書用）を各学級担任に配布する。 ・各学級で児童にファイル（特別活動の話し合いの記録）を配布する。・司会の進め方等資料を準備する。
		その他	・小中一貫教育の合同研修会で「特別活動」の実践報告会があり、その報告会を参考にし黒板に掲示する様々な掲示物等を今年度内に学校で統一して作成することを担当と話合っている。 ・話し合い活動に大切な事は、「子ども達にとって話合う価値があるのか？」「自発的な話し合いになっているのか？」等がポイントとなる。
	中学校	校内研	・校内研の中で学力向上フォーカスシートを活用し、「お互いの考えを尊重し認める学級」「全校統一した学級指導を行い、支持的風土のある学級づくりを実践する」を取組の重点とし、日頃から授業の中で、話し合い活動の時間や、全体の前で発表する時間を設け、「思考力・判断力・表現力」を高める取り組みをしている。夏季校内研修や小中一貫合同会議等、特活や道徳の授業に関して外部から講師を招聘、教職員の指導力向上に努める。指導主事を招聘して、特別活動の授業研究会講話を実施。特活の時間を充実に役立てる。 ・県の施策・事務所・市教委の各種資料をベースに、授業観察シートを作成、研究授業や一人一授業で活用し「対話的な学びの場面がある」かどうかを評価項目に加えた（授業観察シートの項目が先生方にシンプルに授業改善の視点を与えることにつながっている）。
		その他	・年度当初に「学習のかまえ」を全校統一で確認した（学習規律の徹底）。 ・話し合い活動を進めるよい手立てを授業で見かけた時に、教頭通信で職員を賞賛し取り組みを周知した。 ・話し合い活動を進めるためには望ましい人間関係づくりが重要である。そのために、学校では学級経営において座席の配置（工夫）、当番活動等の工夫を行う。教科経営は「学び合い・教え合う学習活動」を通して支持的学級風土の確立に努める。 ・集団作り、自主性を高める取り組みの充実（生徒の活動賞賛・激励し、意欲を育てる「1日1褒め」HappyCardの実施。生徒表彰（皆勤賞、成績優秀賞、特別活動賞その他 毎学期の個人目標（知・徳・体・郷土愛））を数値化による設定する。
大規模校	小学校	学級	・学級の児童全員が学習に参加する授業づくり。 ・自己肯定感を大切にしたい一人一人が活躍できる場面設定を工夫することを全職員で共通理解する。 ・学級の諸問題について話し合って解決する活動であることを踏まえ、計画委員会の活動手順、議題提案のポストなどの活用手順、学級会の時間までの朝の会、帰りの会の有効活用の共通確認。計画委員会のシナリオの紹介や教師の指導・助言のタイミングなどの共通理解をしている。・学級会グッズを各学年で整える。
		支持的風土	・互いに認め合い、支え合う風土の醸成と学習規律等の学習環境を整える。 ・互いに認め合い、支え合う集団づくりを通して、個人・集団における自主的・実践的な態度を育成することが「問い」が生まれる授業の土台になる。支持的風土づくりを目指し友達の話はじっくりと聞いてもらえる雰囲気を作る。 ・自分の考えや思いを安心して表現し、温かい人間関係が形成、個々の自尊感情が高まることを学級経営で目指す。
		共通	・4月の年度当初や校内研修の中で特別活動主任をリーダーとして全職員で学級会の手順の共通確認を行う。 ・自治意識を高める学級活動及び児童会・生徒会活動の充実について、学校教育に求められることを職員で共通確認し

大規模校	小学校	共通	特別活動の公開授業に話し合い活動の重要性について助言を行う。 ・校内研主任や学推主任と話し合っ、全体での話しでは発言を苦手とする児童へ、ペアやグループでの話し合いの場を設けるよう助言、本時のめあてにそった視点の持たせ方やキーワードを活用して話し合いにするなどの助言をする。ただ、取り組みは始まったばかりであり、十分な成果は得られていない。 ・特別活動部会を毎月開催、全学年で共通理解を図る。 ・週1回の学年会で教材研究を行う。
		その他	・話し手や聞き手に以下のことを気付けて発表するようにしている。 (話し手)「黙って挙手をする」「名前を呼ばれたら返事をする」「立って発表する」「聞き手を見ながら発表する」。 (聞き手)「話し手を見て話を聴く」「自分の考えを比べながら聴く」「どんな意見も馬鹿にしない」。
	中学校	校内研	・話し合い活動を進めるには、支持的風土のある学級づくりが必要である、本校の重点目標として「児童生徒が大切され、よさや可能性を伸ばす学級経営」を推進。年2回のQUテストを実施、学級集団の関係を把握することで学級経営に役立てる。各教科のペア学習やグループ学習の話し合い活動では「話し合いのルール」を決め、活発になるように工夫している。教師の発問等を工夫することにより、よりよい思考が深まる、話し合い活動が活発になるようにしている。 ・校内研修のテーマ(話し合い活動の工夫改善)にそって、全職員統一して授業研究に取り組む。 ・「教職員育成・[評価システム]における目標連鎖学習の指導上位目標「他者と関わりながら課題に向かい、「問い」が生まれる授業の構築」とし、『H30「問い」が生まれる授業サポートガイド』を活用した授業改善を推進。 ・職員には思考を深め合う交流場面を日常に設定し、取り組むことをお願いしている。 ・校内研修テーマに「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善 ～「つかむ・考える・深める・まとめる(活用する)」の授業を通して～を掲げ、日々の授業実践において、主体的・対話的な活動を意識して授業展開している。 ・経年研修の職員も多く、(例 合唱コンクールに向けての取組など)指導案を共有、話し合い活動の参考にしている。
		共有	・「つかむ・考える・深める・まとめる(活用する)」は授業指導案にも盛り込み全教師で実践を図っているが、「深める」の活動では、自分の考えと、他者の考えとの交流があり、活発な話し合いが展開されている。教科においても、学習のねらいに迫る意図的な発問を工夫、交流場面を設定することを共通実践。 ・学校全体ではないが、話し合う活動の際にシナリオを共有している。

「話し合い活動を活発に進める手立てについて、学校でどのような工夫をしていますか」では校内研修で取り組むテーマはいろいろとあるが、話し合い活動を授業で活用することで学力向上や支持的風土の高まりにつながるだろうと多くの学校が感じていると思われる。学校全体で話し合いの進め方、学級会グッズをそろえる、掲示物コーナーの設置し全体で共通理解を図っている。

4 まとめ

アンケートから特別活動の取り組みは、学校規模に併せた取り組みの違いや、小中学校の学級担任の取り組みの違いなどがあつた。学級活動で行われる話し合い活動は、各教科の話し合い活動に影響があり、また各教科の話し合いは学級活動の話し合いへ影響があり往還関係である。そのためには、グループ内での互いに意見を発表しあい、意見交換しあえる支持的風土が必要であり、特別活動全般を通して学級の中で醸成させていくことになる。学級内の問題を解決するための話し合いから実践したあとの振り返りまで一連の流れを丁寧に学級活動に取り入れながら、児童生徒のに話し合いの必要性を意識させる。話し合いを通して問題が解決した、自分の意見を伝えた、持てた、相手の意見を聞けた、などの自信が次の活動へと繋がる。

話し合い活動を進める中で学級担任のみが行うのではなく、学年主任、児童会生徒会担当、教頭などからの話し合い活動への提案や授業で使用するプリント、授業展開などを学級担任へ提案していく事も大事だとである。各行事の目標の中に「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を取り入れ、目標達成のための手立てや、振り返りを通して目標が達成されたのか全体で把握することができる。

特別活動の3つの柱「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」は特別活動の目標や見方・考え方にふくまれている。各学校は、学級活動、児童会、生徒会活動、学校行事の各目標の中に、3つの柱をめあてや目標に含ませる事が大事である。

〈参考文献〉

平成29年度全国学力状況調査報告書 「学校質問と学力のクロス分析」
 中学校特別活動解説 特別活動平成29年6月